

第 385 回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《 プログラム・抄録 》

日 時：平成 30 年 3 月 10 日（土）午後 2 時 00 分
会 場：イタリア軒 3 階 『 サンマルコ 』
新潟市中央区西堀通 7 025-224-5111

次回 第 386 回新潟地方会（三大学合同地方会）予告
日時：平成 30 年 6 月 9 日（土）
会場：未定（松本市）
演題申込期限：未定

- ※ すべて PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分（時間厳守）

〒951-8510 新潟市中央区旭町通一番町 757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長 富田 善彦

1. 当院における前立腺癌症例の臨床的検討

新潟県厚生連佐渡総合病院 泌尿器科
室岡和樹、池田正博

2012年からの2年間に病理組織学的に診断した初発前立腺癌84例を対象とした。診断時の平均年齢は72.4歳、平均PSAは207(2.99-5437)ng/ml、UICC stagingはI 28例、II 32例、III 7例、IV 17例であった。初期治療の内訳は、前立腺全摘術10例、放射線療法34例、アンドロゲン遮断療法37例、active surveillance 3例であった。国内大規模臨床統計と比較検証し、佐渡島における前立腺癌症例にどのような傾向があるのかを若干の文献的考察を加えて検討する。

2. 術前EP療法を行った膀胱小細胞癌の1例

新潟市民病院泌尿器科
松本華奈、星野さや香、今井智之、川上芳明

症例は76歳男性。血尿、尿閉を主訴に近医泌尿器科から当院に紹介初診となった。胸腹骨盤部CTで膀胱左壁に結節性腫瘤を認めるも、壁外浸潤や転移は認めなかった。経尿道的手術を施行し膀胱小細胞癌と診断。追加治療として膀胱全摘除術と術前化学療法を行う方針とした。化学療法は肺小細胞癌の治療に準じてEP療法を選択した。EP療法3コース終了後、膀胱全摘除術(回腸導管)を施行した症例を経験したので報告する。

3. ロボット支援下腎部分切除術の初期成績

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科
長谷川素、晝間楓、信下智広、石崎文雄、丸山亮、山名一寿、笠原隆、原昇、富田善彦

本邦において、2016年4月より腎腫瘍に対するロボット支援下腎部分切除術(RAPN)が保険収載された。当院では2016年11月から2018年1月までに8症例を経験した。患側は右7例、左1例、腫瘍径は20mm(13-27mm)、RENAL scoreは5-10、手術時間は197分(150-267分)、出血量は50ml(2-225ml)、温阻血時間は18.5分(9-24分)であった(全て中央値)。術前後のeGFR変化は $-0.7 \text{ ml/min/1.73 m}^2$ と、著変なかった。1例に肺血栓塞栓症を認めた。若干の文献的考察を加えて報告する。

4. 婦人科癌との鑑別を要した放線菌症により両側水腎症を生じた1例

新潟県立中央病院 泌尿器科
中山亮、安藤嵩、水澤隆樹、片桐明善

症例は79歳女性。嘔吐と発熱を主訴に近医を受診、採血で炎症反応上昇、CTで骨盤内腫瘤に伴う右水腎症を認め、精査加療目的に当科に紹介され初診した。子宮悪性腫瘍による腎盂腎炎が疑われ、右尿管ステント留置の上、抗生剤治療を開始した。画像所見、臨床経過や子宮内避妊具の長期留置の既往から、子宮放線菌症の診断に至った。病変の増大に伴い、イレウスおよび左水腎症も生じたため、左尿管ステントも留置したが、抗生剤での保存的治療で改善を認め、両側尿管ステントの抜去に至った。本疾患につき文献的考察を加え提示する。

5. 経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術TURBO (Transurethral resection of bladder tumor in one piece)の試み

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科¹⁾、病理診断科²⁾、
新潟大学大学院 医歯学総合研究科 腎泌尿器科学分野³⁾
乾幸平¹⁾、中川由紀¹⁾、長谷川剛²⁾、西山勉¹⁾、富田善彦³⁾

最近、腫瘍を周辺粘膜から剥離切除する経尿道的膀胱腫瘍一塊切除術TURBO (Transurethral resection of bladder tumor in-one piece)が行われてきている。TURBOは、腫瘍を周囲粘膜と腫瘍下部組織を含めて一塊として除去することができるため、正確な病理診断が可能な理想に近い内視鏡手術方法である。我々も最近TURBOを行ってきているので、現在までの経験と問題点などを報告する。

6. 尿路結核に伴う左尿管炎の1例
新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科
晝間楓、結城恵里、丸山亮、富田善彦

症例は66歳女性。排尿時痛を主訴に受診し、難治性膀胱炎と診断された。腹部骨盤CTで左尿管全体に渡る炎症所見を認め、膀胱鏡にて左尿管口付近の発赤を指摘された。膀胱生検で発赤粘膜組織中の抗酸染色は陰性であったが、その後の尿培養にて尿路結核の診断に至った。尿路結核は近年稀ではあるものの、泌尿器科医として忘れてはならない疾患の一つである。今回我々の経験した尿路結核について、文献的考察を踏まえて報告する。

15:00~16:00

座長 糸井 俊之

7. 当院での very high risk 前立腺癌に対するホルモン併用外照射の成績
がんセンター新潟病院
風間明、斎藤俊弘、武田啓介、小林和博、谷川俊貴

2005年1月から2010年12月の間に当院でホルモン併用外照射を施行された、転移のない局所進行前立腺癌患者のうち、NCCNリスク分類で very high risk に該当する77例の治療成績と予後因子について検討した。5年/10年でのPSA非再発率はそれぞれ75.1%/52.0%、癌特異生存率は96.1%/79.9%、全生存率は89.5%/64.7%であった。臨床病理学的背景や照射前PSA値などについて予後因子となるかについても検討した結果、照射前PSA値だけが統計学的に有意な予後因子であった。

8. 陰茎癌に対する全除精術後に欠損部を腹直筋皮弁で再建した1例
立川総合病院 泌尿器科¹⁾、形成外科²⁾、病理診断科³⁾
石川晶子¹⁾、諏訪通博¹⁾、上原徹¹⁾、高橋博和²⁾、鈴木利光³⁾、小林寛³⁾

89歳男性、外陰部からの間欠的な出血を主訴に当科を初診。陰茎から陰嚢に及ぶ腫瘍と両鼠径・両外腸骨リンパ節腫大を認め、生検で扁平上皮癌であり陰茎癌 cT4N3M0 と診断した。超高齢のため、局所症状コントロール目的の姑息手術のみ行う方針とし、陰嚢組織を含めた全除精術及び会陰部尿道皮膚瘻造設と腹直筋皮弁による再建を行った。病理診断は高分化扁平上皮癌、断端陰性。術後皮弁の状態は良好で、無治療経過観察中だが2か月後のCTでは腫大リンパ節は全て縮小していた。

9. Nivolumab 投与後に血球貪食症候群を発症した1例
長岡赤十字病院 泌尿器科
山崎裕幸、鈴木一也、米山健志

症例は48歳男性。左腎癌、肝転移、骨転移で当科を受診した。腎摘後、分子標的薬として1st line Sunitinib、2nd line Axitinib、3rd line Everolimus を使用したが、いずれも治療効果なくPD判定であった。4th line でNivolumabを4コース投与したが、評価CTでPD判定であり中止とした。Nivolumab最終投与1か月後より40°Cの発熱、G4の血小板減少を認め、精査の結果血球貪食症候群の診断に至った。血小板は0.2万/ μ Lまで減少したが、ステロイド投与、血小板輸血を行い状態改善を得た。Nivolumab投与に伴う血球貪食症候群につき、若干の考察を加えて報告する。

10. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における2017年の手術統計
新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野
山名一寿、田崎正行、丸山亮、笠原隆、星井達彦、原昇、小原健司、斎藤和英、富田善彦

手術件数が増加の一途であることをここ数年、この場で発表してきたが、ようやく安定が見られた1年となった。昨年に大きく変わった点はさらにロボット手術の前立腺全摘術(RARP)と、腎部分切除術(RAPN)がいずれも増加したことである。RARPに関しては拡大郭清を積極的に導入することでリスクが高い患者においても適応は拡大傾向にある。RAPNは新年度から施設認定基準をクリアし保険適応下に施行予定である。移植、小児手術など大学の特色を含めた現状を供覧する。

11. Mucin-producing urothelial-type adenocarcinoma of the prostate (MPUAP) の1例
新潟県立がんセンター新潟病院病理部¹⁾、泌尿器科²⁾

新潟南病院泌尿器科³⁾

川崎隆¹⁾、風間明²⁾、武田啓介²⁾、小林和博²⁾、斎藤俊弘²⁾、谷川俊貴²⁾、小松原秀一³⁾

66歳, 男性. 尿閉を主訴に前医受診. 直腸診で前立腺右葉に大きい腫瘤を触知し, PSAは0.186ng/mlであった. 前立腺生検では, 高円柱状の粘液産生性細胞からなる腺癌を認め細胞外粘液が豊富であった. 免疫染色では, CK7+, 34βE12+, Uroplakin II-, GATA3+/-, PSA-, AR+/-, NKX3.1+であった. 経尿道的に切除された前立腺部尿道に上皮内病変があり, 尿道由来の腺癌の前立腺への進展と考えられた. その後化学療法が行われたが, 癌の進行で当院初診から17ヶ月後に永眠された. MPUAPは英文で22例の報告があり, 前立腺部尿道の尿路上皮由来とされるが, 本例は前立腺の性格も有していた.

12. 新潟市前立腺がん検診—平成21年度から平成27年度検診結果の集計

新潟市前立腺がん検診検討委員会

小松原秀一、渡辺学、吉水敦、谷川俊貴、今井智之、斎藤俊弘、木村元彦、北村康男、糸井俊之、原昇、富田善彦

平成27年度新潟市検診は対象者19,969名、受診者数4,989名、受診率25.0%、要精検者数466名、精検受診者数387名(83.0%)、発見がん数80名、発見率(10万対)1,604であった。新潟市検診検討会発足の平成21年度から最新の27年度までを集計して報告する。

《休憩 16:00～16:30》

日本泌尿器科学会新潟地方会総会

16:30～17:00

Niigata Uro-oncology seminar

日時

2018年3月10日(土) 17:00~

会場

ホテルイタリア軒 3F「サンマルコ」

新潟市中央区西堀通7番町1574番地

TEL : 025(224)5111

PROGRAM

特別講演

(17:00~18:00)

座長：新潟大学大学院

腎泌尿器病態学・分子腫瘍学

教授 富田 善彦 先生

『泌尿器における ゲノム診療』

演者：東京大学医学部泌尿器科

教授 久米 春喜 先生



主催 ノバルティス ファーマ株式会社

※会終了後、情報交換会を予定しております

